第５回　くれよん組の報告

【日　時】平成２４年３月１０日（土）午後２時から４時
【場　所】福祉会館　会議室１、２
【内　容】（１）障がい者フォーラムで行った「防災展」の報告
（２）平成２３年度くれよん組の活動についての振り返り
（３）来年度のくれよん組の活動について
【出席者】メンバー１４名
ほか　アドバイザー１名、職員５名

第１部では、平成２４年２月１９日に実施した第９回障がい者フォーラムでの「防災展」について報告を行いました。第２部では平成２３年度のくれよん組の活動を振り返っての意見交換と来年度以降のくれよん組の活動について話し合いました。

１．障がい者フォーラムでの「防災展」についての報告

平成２４年２月１９日に実施された障がい者フォーラムで実施された「防災展」について報告を行いました。

防災展報告

平成２３年９月１１日に行われた防災訓練に「くれよん組」として参加した様子をまとめたパネル展示と、桂老人福祉センター、安中老人福祉センターを対象に平成２３年１１月１９、２１日に行った福祉避難所見学についてのパネル展示を行いました。また、防災グッズの展示や車椅子対応型の簡易トイレなどを展示しました。

防災展の来場者数について、アンケート結果によると２３７名の来場者がありました。

２．平成２３年度くれよん組の活動についての意見交換

第２部では２３年度のくれよん組の活動の振り返りと今後のワーキング会議の在り方について話し合いました。

平成２３年度のくれよん組の活動を振り返って、意見交換を行いました。

意見交換のなかで以下のような意見が挙がりました。

① 防災訓練に参加して、はじめて気がつくこともあるので、これからも地域の防災訓練に参加したほうが良いと思った。また、地域の防災訓練に参加することが、地域に自分のことをわかってもらう機会になる。
② 地域の避難所や、福祉避難所に指定されている避難所には改善すべき点があるので、それらについては意見を言わなければならない。また、災害時のわかりやすいマニュアルが必要である。
③ 様々な障がい者がいるので、災害時にどのような助けが必要なのかを他の人に分かってもらえるためにどうすべきかを考える必要がある。
④ 災害時に備えて、隣近所など地域の人に自分の存在を知ってもらうことが大切である。
⑤ 防災について今まで考える機会がなかったが、災害時の避難所について設備を確認するなど、今回のワーキング会議を機会に防災について考えるようになった。

３．まとめ

平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災をきっかけに、今年度は防災をテーマにワーキング会議を行いました。

防災についての話し合いや意見交換、そして実際に防災訓練に参加したり、福祉避難所を見学するなかで様々な課題が見えてきました。

また、課題を指摘するだけでなく、地域の防災訓練に参加することなどを通して、地域に自分たちのことを知ってもらうことも重要であることがわかりました。

今年度のワーキング会議は防災について、今後も考えていく機会となりました。

４．来年度のくれよん組の活動について

平成２４年度については、障害者基本計画の見直しについて議論する機会とし、２３年度の既存メンバーで活動する方向で進めることとなりました。

障がい者フォーラムについて、実施するかどうかは、引き続き話し合って結論を出すことになりました。